

化学物質過敏症 (MCS) 患者を対象とした個人曝露量追跡測定

ひるかわまい
○蛙川舞¹、中井里史¹、松井孝子²、坂部貢²、宮田幹夫²、石川哲²

1：横浜国立大学大学院工学研究科物質工学専攻

2：北里研究所病院 臨床環境医学センター

【目的】近年問題になっている化学物質過敏症 (MCS) は室内等に存在する化学物質が原因と考えられている。本研究では、実際のMCS患者の室内汚染物質への曝露レベル及び症状の関係を探るため、これらの長期的なデータを得ることを目的とする。

【方法】対象者：MCS発症直後に近く、かつ家庭内に原因がある女性、対象人数：5名(順次追加)、測定期間：月1回1週間測定を半年、測定項目：個人曝露量、室内・室外濃度の測定、症状日誌、温湿度、対象物質：アルデヒド類(個人曝露量、室内・室外濃度)、VOC(室内・室外濃度)、サンプリング方法：Passive法、分析方法：アルデヒド類はDNPHカートリッジ-HPLC分析、VOCは活性炭吸着-GC-MS分析

【結果及び考察】患者A(51歳、女性、一戸建て築1.3年)、及び患者B(36歳、女性、集合住宅築6ヶ月)の個人曝露量及び室内のアルデヒド濃度の結果を図に示す。全体的に濃度は低い。また、個人曝露量と室内濃度の値がほぼ同じであり、両者が密接に関連していることがわかる。

今回の結果は計6回の測定のうちの最初の2回分であるので、症状との関連等については今後の結果および他の物質の結果を考察する必要がある。

